

(様式 3)

政務活動（参加・実施）報告書

令和 7 年 7 月 3 日

会 派

公明党議員団

参 加 者

藤田 広美

政務活動先 (目的地)	明石市役所 兵庫県明石市中崎 1 丁目 5 番 1 号				
開催団体等					
政務活動期間	令和7年7月1日(火)～7月2日(水)				2 日間
政務活動項目 (名称等)	こども政策について				
政 務 活 動 参 加 者	藤田広美	大野正和	池田謙次	神山哲太郎	
					計 4 名
全体参加者数					
政務活動の目的・結果等の概要・所見	《目的》 明石市は「こどもを核としたまちづくり」を掲げ、「子育て施策の充実」と「出生率の回復」において全国的に注目されている自治体であります。本市におきましてもこどもどまんなかアクションを掲げ、少子化対策や子育て支援のさらなる充実を目指す中で、先進的な取り組みを直接確認・学ぶことを目的とします。 《こども政策について》 ○明石市では子育て支援の理念と基本方針としまして、「こどもを核としたまちづくり」を基本に、財政の健全化と並行して、徹底した子育て支援を展開してきました。前市長の強いリーダーシップのもと、「こどもにやさしいまちは、誰にとってもやさしいまちである」との考えから、全世代に恩恵のある施策へと昇華させている点が特徴的でありました。 ○具体的な施策としまして教えて頂いた主な内容は以下の通りでした。 ① 医療費の無償化 18 歳までの医療費を完全無償化(所得制限なし、自己負担ゼロ)としており、保護者の経済的負担軽減に大きく貢献している。 ② 第 2 子以降の保育料無償化				

第2子以降の保育料を完全無償化。市独自の財源によって実施されている。

- ③ おむつ・おしりふきの無料配送(0歳児対象)
定期的な配送により、育児初期の家庭を支援するとともに、市との接点・見守りにもつなげている。
- ④ 給食費の無償化
中学校までの学校給食費を無償化しており、物価高騰への対応としても有効な施策。
- ⑤ 遊び場の無償化
市立天文科学館、文化博物館、海浜プール、親子交流スペースの入場料を無償化し、遊び場他居場所作りに大きく貢献している。
- ⑥ 出産費用の無償化
国の制度に加え、自己負担部分を市が補填することで、出産費用の完全無償化を実現。
- ⑦ 高校生の通学定期代補助
上限1万円を支給し、家庭の負担を軽減。高等教育へのアクセス保障の観点も含まれている。
- ⑧ ひとり親家庭への支援充実
経済的支援に加え、就労支援、相談体制の強化など総合的な支援を展開。
- ⑨ 市独自の児童手当加算
第3子以降に対しては国制度に上乗せして月額15,000円を支給。

※①から⑤は明石市独自の5つの無償化として柱の施策となっておりました。

○施策の成果と影響としましてはたくさんある中で主なものは以下の通りです。

・2013年から2023年までの10年間、連続して社会増を記録し、特に子育て世代の転入が目立ち、若年層定住促進になりました。人口の社会増を継続的に達成しました。

・合計特殊出生率が全国平均を上回る水準まで回復(例:2022年時点で1.62)しました。この傾向は全国でも稀な事例であるということです。

・財政への影響について質問して説明を頂きました。支出の増加はあるものの、「将来への投資」として位置づけており、転入増による税収増、教育・福祉の連携による効率化などが相まって、財政悪化には至っていないとの説明がありましたが、現実これからは相当大変になるとの事でした。

《所感》

人口増加につながる施策の中に、間違いなくこども政策が含まれていることを裏付けとともに教えて頂きました。

この視察で学ばせて頂いたことを活かし、本市におきましても

	中長期的な視点での子育て支援施策の拡充に努めるとともに、「選ばれるまちづくり」に向けた戦略的施策の立案に繋げていきたいと思います。	
	資料名(会派保管)	「明石市の子育て施策(説明資料)」 「明石市の概要」 「あかし市議会だより」

会派内回覧								
-------	---	---	---	---	--	--	--	--

(様式 3)

政務活動（参加・実施）報告書

令和 7 年 7 月 10 日

会 派 公明党議員団参 加 者 藤田 広美

政務活動先 (目的地)	① 山口県周南市岐山通 1-1 周南市役所 ② 福岡県福岡市中央区天神 1 丁目 8-1 福岡市役所				
開催団体等					
政務活動期間	令和 7 年 7 月 7 日 (月) ~ 9 日 (水)				3 日間
政務活動項目 (名称等)	① 水素利活用について ② ごみの夜間収集等について				
政務活動参加者	藤田広美	大野正和	池田謙次	神山哲太郎	
					計 4 名
全体参加者数					
政務活動の目的・結果等の概要・所見	① 周南市<参加者：藤田、大野、神山> 《目的》 周南市は、産業都市としての基盤を活かし、全国でも先進的な水素の製造・供給・利用に関する取り組みを進めております。水素社会の実現に向けては、地域における実証的な取り組みや民間事業者との連携が不可欠で、このたびの視察では、周南市の具体的な取り組み内容や導入に至った経緯、今後の展望について把握し本市におきまして今後の参考にすることを目的とします。 《水素利活用について》 ○周南市は、石油・化学コンビナートなどの産業が集積しており、製造工程において副生水素（副産物として生成される水素）が発生しております。この副生水素を活用することで、効率的かつ比較的低コストな水素製造、供給体制を構築しておりました。 ○市内には、水素ステーションの整備が進められておりまして、燃料電池自動車（FCV）への燃料供給や、将来的な一般向け供給拠点としての活用が想定されておりました。現在は、商用車・公用車・実証実験車両等への利用が主でありました。 ○周南市は、関係事業者（東ソー株式会社、岩谷産業株式会社など）との官民連携体制の下、「周南市水素利活用協議会」等を通じて、水素関連産業の振興や水素利用の拡大に向けた取り組みを推進しておりました。 ○実証事業・教育普及活動				

水素を活用した発電設備の導入や、小中学校における環境教育の一環として水素エネルギーに関する学習機会の提供など、啓発活動にも力を入れておりました。地域住民への理解促進も重要なテーマとなっていて教育が将来の普及活動ととらえ推進されてました。

○苫小牧市も、将来的に再生可能エネルギー由来のグリーン水素の活用や、ゼロカーボンシティの実現に向けたエネルギー政策が求められる中、以下の点が先行地域である周南市にあり、参考になりました。

- ・既存産業の副産物活用という視点(苫小牧港湾地域の産業構造との接点の可能性があります、苛性ソーダ製造の副産物のひとつが水素)は必要だと思いました。

- ・企業や研究機関と行政が連携する官民連携体制の構築の場の整備をされておりました。

- ・教育現場やイベントを通じた地域住民への理解促進の啓発活動の重要性がありました。

- ・水素インフラ整備は将来の利用拡大を見据えた計画的に段階的導入として整備することが必要でありました。

《所感》

周南市の取り組みは、既存の産業構造を最大限に活かしながら、地域全体で水素利活用のモデルを構築しようとする先進的事例であり、今後の苫小牧市におけるエネルギー政策や脱炭素戦略にとって、大いに参考となるものでありました。

副産物からのスタートでありましたが、利活用方法は歴史があるだけあり多彩で学ばせて頂きましたので本市の将来の提案をさせていただきます。

② 福岡市〈参加者：全員〉

《目的》

本市においてもごみの適正排出・収集をめぐる課題があるなか、政令指定都市で唯一、全市的に「夜間かつ戸別収集」を実施している福岡市の取組を参考に、ごみ収集の効率性、美観、防犯面等への効果、及び課題と対策について学ぶことを目的として視察を実施しました。

《ごみの夜間収集等について》

○ごみ収集の概要ですが、夜間・戸別収集方式で(全市で実施、政令指定都市で唯一)、収集時間に関しましては、市民の持ち出しは「日没から夜 12 時まで」、収集は「夜 12 時以降」と夜間収集の文化が根付いておりました。収集形態は全業務を民間委託(市制施行当初から)での運用ということでした。

○夜間収集の特徴としましてメリットとデメリットは以下の通りです。

【メリット】

- ・都市美観の維持(昼間にゴミ袋が見えない)
- ・交通渋滞の緩和(夜間は車両の通行が少ない)
- ・カラス等による被害の抑制

	・防犯効果(夜間巡回としての役割も担う) 【デメリットと対策】 ・騒音:収集車の走行音や作業音が夜間の静寂の中で目立つ → 対策:集音マイクやバックモニターの設置 ・分別ルールの形骸化:人目がない時間帯でルールが守られにくい → 対策:ルール違反のごみは収集せず理由を明記して残置 ○戸別収集の特徴についてもメリットとデメリットを以下の通りお聞きしました。 【メリット】 ・排出者が特定でき、分別や出し方のルールが守られやすい ・集積所の設置・管理が不要 ・高齢者や障がい者のごみ出しがしやすい(自宅前に出すだけ) 【デメリットと対策】 ・作業時間の長時間化 → 対策:3人体制(運転手+作業員2名)で効率的に対応 ・車両の小型化が必要で台数増加 → CO₂排出量の増加 → 対策:燃料電池(FC)パッカー車の導入(令和5年度1台、7年度2台) ○市民の満足度の指標としまして、令和5年度のアンケートの主なもので、夜間収集は97.0%が満足、戸別収集は94.5%が満足との結果が出ており高い満足度となっております。 《所感》 福岡市では、都市の特性や住環境を踏まえて、長年にわたって「夜間かつ戸別収集」を進めてきました。その中で、美観や防犯、衛生面の向上といった多面的な効果が確認されており、市民の満足度も非常に高い結果となっております。一方で、騒音やCO₂排出量などの課題にも正面から向き合い、技術的・制度的な対応が図られている点は注目に値する内容となっております。 本市におきましても、地域特性を踏まえつつ、戸別収集や収集時間帯の工夫、防犯・衛生対策としてのごみ行政の在り方を今後検討していく上で、大変示唆に富む視察でありました。
	資料名(会派保管) ① 周南市 「山口県周南市における水素利活用の取り組み」 「山口県周南市観光パンフレット」 「周南市ふるさと納税パンフレット」他 ② 福岡市 「家庭ごみの収集説明資料」 「福岡市の概要」

会派内回覧								
-------	---	---	---	---	--	--	--	--